

神奈川ウォーキング参加 H25-32



日時 : 平成26年5月25日(日) 集合: 京急三崎口駅 10:00
コース: 三崎口駅→小網代の森→油壺荒井浜(昼食・笠懸見学)→油壺バス停からバス→三崎口駅
参加者: 吉越L・勅使河原・神谷・鈴木徳・平石一・小野里・青松秀・佐藤繁・藤原和・新谷・沢崎
・宮野・片岡・清水修・落合・山川・草野・高木・鈴木美・中村ゆかり・丹後とし子・小島・伊藤真
(将太郎・小雪=吉越さん孫) 合計25名 約10,000歩(伊藤自宅含め16,000歩)
天候 : 晴れ

【三崎口駅】地元三浦市初声町お住まいの吉越L、孫お2人と三崎口駅でお迎え。「道寸祭り」裏面ガイドマップ付「歴史と自然と三浦の食」のパンフレットを戴き、今日のコース説明。道寸祭はKWCウォークでは2回目の様ですが、今日参加の人は小生含め殆ど初体験。又「小網代の森」は貴重な動植物が生育する自然環境の森で、京急がゴルフ場として確保していた森を神奈川県により保護整備され、平成26年7月19日開放されます。7/19(土)「関東ふれあいの道、油壺・入江のみち」では歩けるが、今回はその一部を歩きます。三崎口駅から車道をしばらくして、広大な畑が広がる農道に入り歩きます。



【ガイドマップ】「小網代の森」の散策は今回湾に近い一部だけ。三浦半島の相模湾側小網代湾と油壺湾に挟まれた

「笠懸会場」まで歩きます。



広大な畑から少し坂道を登り、畑が見下ろせる所で各自自主ストレッチ。



カボチャ畑、黄色の花の下には、小さな実を付けてこれから成長し出荷時期を迎えます。いよいよ森に入ります。



「小網代の森」の案内看板の前で今日のコースを説明される吉越L <子供の頃良く遊びにきました>



「小網代の森周辺拡大図」↓HPより(吉越Lが指さしている看板と同じ、但し南北逆になっています。下図は上が北)



小網代湾が見えてきました。引き潮時には湿地になり生き物が見られます。

↓7/19 ここが開放されます。



立ち入り禁止の所があります。今日は日曜日で工事なし。吉越L良く歩いた道、「柵越えて行きましょう！」



坂道の段を下ると小網代湾に出ました。すぐ右に「白髭神社」がありますが、今日はお参りしません。
森の中のウォーキング、先導役は将太郎君と小雪さんヤングマン、恐らく吉越さんもこの世代にはこの森を・・・
元気なお孫さん、孫は可愛いですね・・・！

【白髭神社】↓

今歩いた「網代の森」を振り返る

道端の崖穴には生き物が潜んでいます



小網代湾は相模湾に面した良港で江戸時代から栄え、現在は釣り船で有名である。岸壁にはいくつもの洞窟や狙撃用の口が開けられ今も残る。又現在はマリパークや高級リゾートマンションがある。



苔のついた地蔵さんが御迎え



「道寸まつり笠懸会場」入口到着 11:26 6,500歩 「新井城址本丸」現在「東京大学臨海実験所」で今日は無料開放され、こちらを見学して↓この入口から入らず、反対側から浜へ行きます。

【東京大学臨海実験所】のお陰で新井城址が保護されているようです。



【三浦一族本拠地新井城址一般公開】

9:30~14:00

地元高校生がボランティアで4人/組×4班で資料をかざして説明してくれた。良い企画でした。

「新井城址本丸」と「新井城と三浦道寸・荒次郎」の資料を貰い4班、順に説明を受け、最後に【空堀】を見て引き返す。

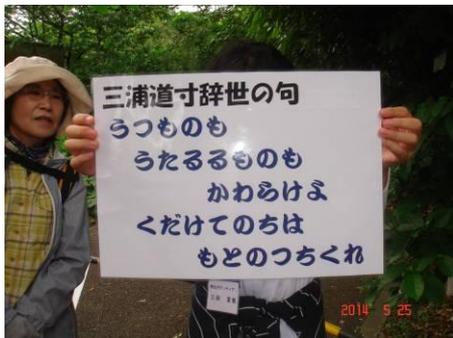


【新井城址鳥観図】

【空堀】両側6m高さの土塁で、馬1頭走る幅向こう側は海の崖下



三浦一族は資料にもあるように、1247年頃から新井城を本拠地とし、1516年 北条早雲に敗れ滅びる。



【道寸祭会場荒井浜】11:00 8,500歩 昼食 吉越Lお酒とマグロ焼き他おつまみ持参、青松さんのゆで卵も戴き笠懸本番が始まるまでお休み。遠笠懸開始13:58まで時間がありますが、行事が本部で下記のようにあります。皆さん砂浜の昼食場所でゆっくり休憩。(伊藤は最初本部を見学し、その後笠懸撮影カメラポジション確保で動けず)



- 【道寸祭り】
- 11:00 供養祭 11:20 和太鼓の演奏
 - 12:00 立身流兵法の演武(立身流市原支部)
 - 13:00 笠懸(武田流弓馬道一門)
 - 神事・騎馬武者のデモンストレーション・矢代振
 - 遠笠懸(大的) ・小笠懸(小的)
 - ◆奉行 武田流弓馬一門
 - ◆射手 武田流弓馬一門

思ったより人出少なく、広々と場所取り出来ました。地のマグロと御酒付の昼食、お祭り気分になりました。



本部を覗く 祭壇↓



演武→
12:42



武者デモンストレーション13:15



【笠懸本番開始】 13:58～<連写で撮影> 大的狙い やはり構えるところがカッコイイ!



帰りは小的狙い



3枚連写の写真

下の写真は見事的に当てて割っています



歴史:鎌倉から室町期にかけて、三浦半島で栄えた三浦一族の鎮魂祭として行われた。三浦義澄、和田義盛など三浦一族は弓上手として知られているようです。

14:22 集合写真を撮りそろそろ帰りましょう！（全員御揃いではありませんが・・・）



【油壺湾】のいわれ



油壺湾

油壺の名のいわれは、永正十三年（一五二六年）新井城（今の油壺一帯）を最後の居城として立て籠った三浦一族が北条早雲の大軍を相手に、三年間にわたって奮戦しましたが空しくついに全滅し、一族の将三浦道守（みちもり）をはじめその子荒次郎（あらいじろう）義意（よしい）は、自刃、他の将兵も討死、または油壺湾へ投身したと伝えられ、そのため湾一面が血汐で染まり、まるで油を流したような状態になったので後世、「油壺」といわれるようになりました。

北条五代記には、三浦一族全滅の模様を次のように記しています。

「今も七月十一日には毎年新井の城に雲霧おおいて日の光りも定かならず、丑寅の方と未申の方より雷かがやき出て両方光入乱れ風猛火を吹き上げ光のなかに異形異類の物有りて干戈（かんが）をみだし、虚空に兵馬馳け散り乱れ天地をひびかし戦う有様おそろしきと言うばかりなり云々」

湾の周りの森が見事に保存されています。この中を歩きます。



14:45↓のバスで三崎口駅まで、アフター有志は三浦駅まで1駅電車に乗り、お魚の美味しい「魚火亭」に行きました。



【アフター in 魚火亭】有志11名で盛り上がりました。



この店は三浦海岸に来る時は必ず寄るお店で、魚が美味しい。最初の乾杯ビールの美味しいことこの上なし。獲れたての魚、刺身を始め最高のおつまみでした。後はイモ焼酎「島美人」ボトルで健康的な時間で御開きしました。最近山川カメラマンのお陰で、小生の写真が入るようになりました。感謝！



編集後記：三浦道寸祭り「笠懸」は初めての体験で、初夏の油壺湾新井浜の砂浜を馬で走り弓矢を、的を狙い華麗な武者姿で弓を放つ！写真の出来具合は・・・？地元吉越Lには案内と昼食おつまみ&御酒持参戴き、有難うございました。次会7/19（土）「関東ふれあいの道 油壺・入江のみち」にも是非参加され、初夏の「小網代の森・海岸歩き」を楽しみましょう。

いつもの拙いボケ防止用の日記帳「メモと写真」です。失礼な記述や、誤記があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。